CASBEE®新潟 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	(仮称)ダイアパレス一番掘通町
建設地	新潟県新潟市中央区一番掘通町336-1、336-2、本町通一番町334-1
用途地域	商業地域、準防火地域
建物用途	集合住宅,
竣工年	2027年2月 竣工
敷地面積	1,208.84 ㎡
建築面積	524.72 ㎡
延床面積	5,548.01 ㎡
階数	地上14F
構造	RC造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2025年5月28日



2. CASBEE新潟の評価結果



S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★

A

$$BEE = \frac{Q\ \text{建築物の環境品質}}{L\ \text{建築物の環境負荷低減性}} = \frac{54.3}{32.2} = 1.6$$

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.5		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	5.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	2.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 4.0		節水	LR2.1.1	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	4.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.0		生物環境の保全と創出	Q3.1	1.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	3.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

1.住宅性能表示制度の劣化対策等級3を確保し長寿命化の取組みに配慮した。
4.住宅性能表示制度の省エネ等級5を確保し断熱性能の向上に努め、建物の熱負荷抑制に配慮した。
5.節水型の便器やリサイクル資材を採用し資源循環の取組みに配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）

CASBEE®新潟　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版　|使用評価ソフト：CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)ダイアパレス一番掘通町	階数	地上14F
建設地	新潟県新潟市中央区一番堀通町336-1、336-2、本町通一番町334-1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	230 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年2月　竣工	評価の実施日	2025年5月28日
敷地面積	1,209 ㎡	作成者	勝沼幸男
建築面積	525 ㎡	確認日	2025年5月29日
延床面積	5,548 ㎡	確認者	勝沼幸男

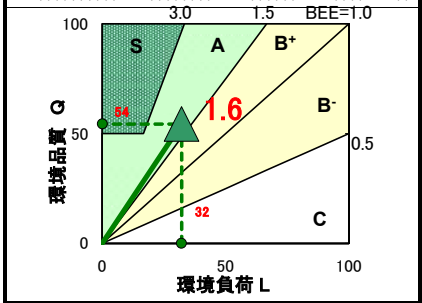
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.6

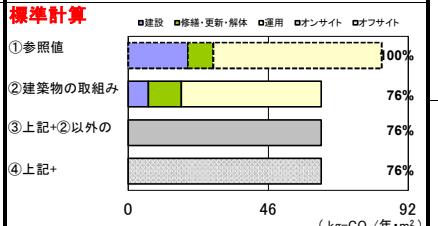
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

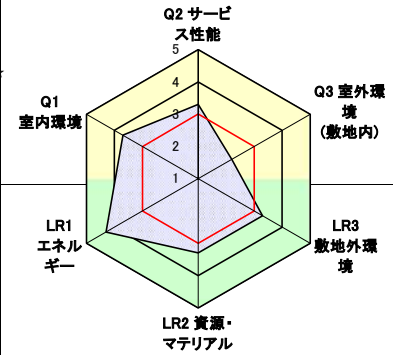
30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

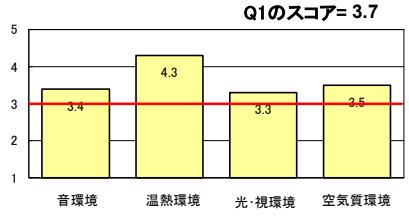
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



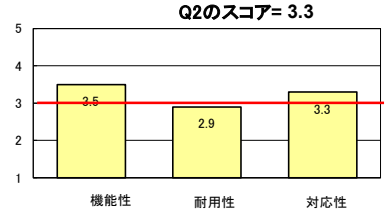
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.1

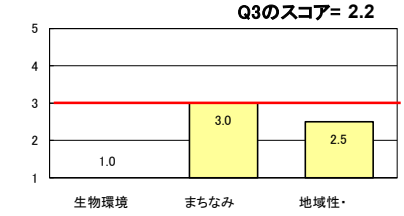
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.7



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.3

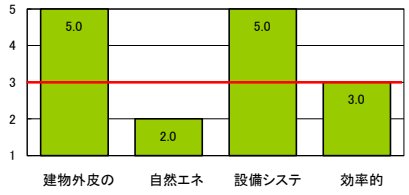


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.2

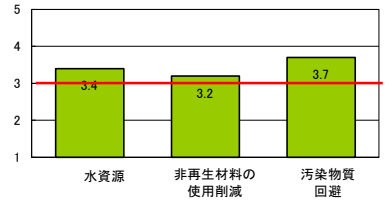


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

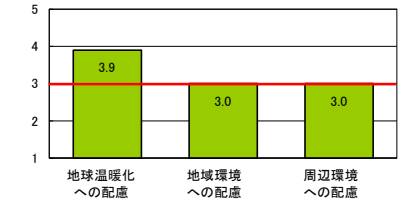
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.3



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.3



3 設計上の配慮事項

総合

省エネルギーへの対策や建材の耐久性を考慮するとともに、共同住宅という用途上、室内環境の向上や防犯性にも配慮した。

その他

0

Q1 室内環境

シックハウス等の原因となる化学汚染物質の発生を低減するように配慮した。また、住戸の遮音性にも配慮し 遮音等級T-2のサッシを採用した。

Q2 サービス性能

屋外に設置する設備機器等はメンテナンス性に配慮した。また、住宅性能表示制度の劣化対策等級３を確保するとともに、設備配管についても長寿命のものを使用するように配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

植栽により敷地内温熱環境の向上を図った。また、共同住宅という用途上 特に防犯性にも配慮した。

LR1 エネルギー

住宅性能表示制度の省エネルギー対策等級５を確保し 断熱性能の向上を図るとともに、共用部においては高効率の照明器具を採用して 省エネルギーに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

節水型の便器の採用により水資源保護に配慮した。また、有害物質を含まない材料を使用し環境負荷低減にも配慮した。

LR3 敷地外環境

敷地外に与える影響を検討し、駐車場の確保など出来るだけ周辺環境に影響の出ないように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される